

令和2年度 事業報告

I. 総括

2015年に第3回国連防災世界会議で仙台防災枠組が策定されて以来、世界では防災の機運がこれまでになく高まっていますが、未だに相次ぐ大災害の発生を食い止めることには成功していません。地球温暖化に伴う気候変動の影響はすでに顕在化し、今後更に災害リスクが高まる恐れもある中、解決のための具体的な適応策の実施はもはや待ったなしの状況となってきました。

一般財団法人・世界防災フォーラムは、東日本大震災や世界の大災害からの経験や教訓をもとに、産官学民での防災のソリューションの追求や国際的な共有を目標とし活動してまいりました。

しかしながら、令和2年度はコロナパンデミックにより、計画していた活動が大きく制限された1年となりました。第3回 世界防災フォーラム(2021年予定)の開催が2022年度へ1年延期の方向で進む中、その代替イベントとして、より安全なアウトドアでの活動が中心となる World Bosai Walk Tohoku+10(WBW)を企画いたしました。

これまでの社会生活の常識や行動規範はコロナパンデミックで一変し、発災時の避難や復旧などにおいても、その影響を考慮することは必須となりました。私たち財団のメンバーの働き方も行動が制限され、在宅勤務・オンラインミーティングが主体となりました。収束は未だ想定できず、これからはパンデミックの影響とリスクを最大限に考慮した計画立案と実行の必要性を痛感した一年となりました。特に感染防止の徹底と、ICTの積極的活用は今後最重要だと捉えています。

II. 個別事業

1. 公益事業

(1) 情報発信事業

(2021年第3回世界防災フォーラムの開催の準備)

2021年に開催予定の第3回世界防災フォーラムは昨年から継続するコロナパンデミックの影響で延期予定です。新たに2022年11月19-22日に会場の仮予約を行いました。準備は、改めて令和3年度から開始する予定です。

(三陸国際芸術祭での防災文化シンポジウムの開催)

本件も同様に延期となりました。

(世界防災関連博物館のネットワーク構築事業)

災害の経験を忘れずに記録し、次世代につないでいくための活動の1つとして世界中の防災関連博物館のソフトなネットワークを構築することを目的とした事業です。本件も同様に海外に向けた活動は実施できませんでした。しかし、いくつかの東北地方の沿岸地域の災害・復興関連のミュージアムにおいて、趣旨や目的の説明を実施し、ご賛同いただきました。

(世界津波博物館会議支援事業)

2020 年秋の世界津波博物館会議の開催はありませんでした。

(WBW の準備)

World Bosai Walk Tohoku+10(WBW)というイベントを 2021 年秋(9/4～10/3 予定)実施に向けて新たに企画致しました。その下見などの準備作業や、周知や後援・協賛などの獲得に向けた渉外活動を実施しました。

本件は、第 3 回世界防災フォーラムにおいて海外からの来賓を日本国内に招くことが困難になった中で、逆に日本から世界に東日本大震災10年目の復興復旧の様子を発信するイベントです。福島県いわき市から、青森県八戸市まで主に徒歩で走破しながら情報発信を行います。特に海外への情報発信を重視し、コロナパンデミック終了後にはインバウンド需要を掘り起こし、東北の復興に微力ながら寄与できればと考えております。

(仙台防災未来フォーラム 2021 への参加)

3/6-7 に仙台国際センターで開催された「仙台防災未来フォーラム」にてブースを出展し、財団及び WBW の広報活動を実施しました。

(SONG OF THE EARTH 311 -FUKUSHIMA 2021 への参加)

3/12 にキャンドルアーティストの CANDLE JUNE さんが代表を務める(一社)LOVE FOR NIPPON が福島県の J ヴィレッジにて開催した SOTE シンポジウムにブース展示し、同様の広報活動を実施しました。

(2) 調査研究事業

(災害リスクの把握・分析及び報告書の作成)

仙台防災枠組のグローバルターゲット達成のため、各国が整備する災害被害統計とリンクした東北大学災害科学国際研究所に設置された災害統計グローバルセンターを支援する活動です。コロナパンデミックの影響により、進捗はありませんでした。

2. 収益事業

令和2年度は世界防災フォーラムが未開催の年であり、収益事業は実施しませんでした。

以上